

# 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間:2023/12/05 ~2023/12/31)

## (概要)

12月は約1ヶ月間、学期休みだったので、休みを活かして私が所属する長濱研主催の韓国研修とNGO団体主催のフィリピンでのボランティア活動に参加しました。今回の報告書では、韓国とフィリピンへの訪問を通じて得た経験、異なる文化に触れたことで感じたこと、および海外での英語学習に焦点を当てて報告します。

## (韓国研修)

韓国研修について報告します。まず、準備段階で事件が発生してしまいました。出発日の前日に廊下で陰干しをしていたダウンがなくなってしまったんです。おそらく盗まれたと思います。すぐに大学のセキュリティセンターに連絡しましたが、見つかりませんでした。年間を通して平均気温が27度の常夏のマレーシアとは違って、韓国は10度を下回る真冬の時期だったので仕方なく新しいダウンを出発当日に購入しました。新しいダウンをユニクロで購入しましたが、日本のユニクロで売られている価格よりも3000円ほど高かったです。購入前は、常夏のマレーシアにはダウンなどはあまり売られていないのではないかと心配していましたが、ユニクロやH&Mなどの大手衣類店では案外、冬物の洋服もすぐに見つかって安心しました。その後、飛行機への搭乗や到着した後の入国審査は何事もなくスムーズに終わることができ、無事に韓国の仁川空港に到着しました。その後、長濱先生と研究室のみんなと合流し、研修がスタートしました。

研修として浄水工場を2つと酒造会社を1つ訪問し、見学しました。研究室のメンバーに韓国人で韓国出身の生徒がいたので移動や乗り物などは割とスムーズにできました。他にもソウルタワーや南大門市場、明洞、韓服を着て景福宮を訪れるなど観光も満喫しました。

食に関して、旅行中にさまざまな韓国料理を堪能しました。参鶏湯、サムギョプサル、キムチなど日本ではあまり食べることのできないものを楽しめました。キムチはお店ごとに辛さや味は違うもののどこのお店に行っても用意されていました。そして、韓国滞在中はお通じがとてよかったです。これはカプサイシンという唐辛子の辛味成分に整腸作用があるからと考えられます。キムチや辛いものは好きなので、積極的に摂取しようと思いました。韓国料理の多様性や伝統的な儀式に参加することで、異なる習慣や価値観を理解することができました。

そして、研修最終日に妹が韓国に来てくれて、私の誕生日を祝ってくれました。妹とは3日間韓国を旅行しました。その間、明洞でショッピングをしたり、美容関連の商品を試したりして楽しみました。もちろん韓国料理もとんと堪能しました。

(フィリピン)

韓国を満喫した後、そのままフィリピンに向かいました。そして、フィリピンのセブ島で働いている兄のところで3日間、そして、NGO 団体での活動を5日間経験しました。

まず、到着した日はクリスマス1週間前の日曜日だったので、兄の知り合いがクリスマスパーティーに招待してくれました。まずは教会で聖書の読み聞かせを聞き、その後祈り、代表者の合唱を聴きました。そして、クリスチャンになる儀式いわゆる洗礼を見学しました。洗礼とは、イエス・キリストと一体となることを象徴する儀式であり、洗礼方法にはいくつか種類があるようです。今回私が見た儀式は、浸礼と言われる多くの教会で行われている洗礼方法です。「キリストと共に死に、甦る」ことを表しているだけでなく、「キリストに浸かって染まる」という意味もあって、全身を水の中に浸す方法です。教会に集まった人々は浸礼の際、歌を歌いながら見守っていました。その後、教会でみんなで昼食を食べました。現地の食事は日本とは少し違いますが、とても美味しかったです。日本人の口にも合うものが多いと思います。

2日目は兄が仕事だったので、近くのショッピングモールに買い物に行きました。ショッピングモールの入り口には必ず、警備員が立っており、金属探知機を通して、バックの中身をチェックされます。都心に行くほどセキュリティが厳しい印象を受けました。中に入ると日本のショッピングモールと大差ないほど綺麗でブランド品のお店も見られました。最上階には映画館がありました。一本500円くらいでとても安かったです。その日は時間がなかったので見られませんが、次に訪れる時は入ってみたいです。そして、その日の夕食は近くのナイトマーケットに兄と一緒に行きました。フィリピンはマンゴーが有名で日本のものよりとても甘くて美味しかったです。料理もどれも美味しそうなものばかりでした。お腹いっぱい食べても500円くらいで済みます。また、兄が住んでいるところがセブ島の中でもIT企業が多く隣接している場所なので、物価はフィリピンの中でも高い方だと思います。

3日目は兄の職場を見学しに行きました。IT系の職場でオンライン英会話の会社でした。初めて訪れたにもかかわらず、皆さんフレンドリーでとても楽しい雰囲気が伝わりました。そして、これは兄に聞いたのですが、フィリピン人の平均月収は日本円で約8万円で、現地の人は約6万円/月くらいで生活しているようです。しかし、兄が勤めている会社は日本の企業なので、日本人だと25~30万円/月くらいの月収がもらえるそうです。どんなに贅沢しても余るので、お金は貯まる一方だと言っていました。日本以外での働き方も面白いなと感じました。その後、SM sea side mall という大きなショッピングモールに行きました。そこで、現地のファミレスのようなところで食事を済ませた後、Ocean park という水族館に行きました。熱帯地域ならではのカラフルな魚や日本にはいない巨大とかげや巨大ゴキブリなどを見ることが出来てとてもいい経験になりました。

次に少しフィリピンの乗り物について紹介します。フィリピンには車やバス、電車以外に、面白い乗り物がたくさんありました。ここではタクシー、ハバルハバル、ジプニー、トライ

シクル、ペディキャブの5種類について記述します。

タクシーは日本と同じで手を挙げて捕まえます。初乗りが40ペソ（約100円）で、その後、250mごとに3.5ペソ（約10円）の料金が加算されます。運転は日本では考えられないくらい荒いので車酔いしやすい人は要注意です。また、乗る前に運転手に行き先を伝えて、許可を取る必要があります。これは、行き先が遠かったり、混んでいて運転手が運転したくないと断られるからです。そして、ぼったくり防止のため、乗ってすぐに料金メーターがついてるかどうかを確認し、出発後は料金表示のメーターが正常に動いているかどうかを確認する必要があります。私は最終日の最後の最後に乗ったタクシーで一度ぼったくられました。そのタクシーにはメーターがついておらず、値段交渉をしないまま乗車してしまったので失態でした。観光客、特に日本人で英語があまり話せない人は、ぼったくりの対象になりやすいので注意が必要です。

ハバルハバルはタクシーのバイク版です。ハバルハバルはメーターがついていないので、乗る前に値段交渉が必須です。1時間ほど乗っても200ペソ（約600円）くらいでした。タクシーよりも安いですが、1人もしくは2人しか乗れないので、3人以上で移動する場合は、タクシーの方が安くなります。また、フィリピンは朝と夜の通勤・帰宅時間にもものすごく混みます。そういう時に、このハバルハバルなら細い隙間でも通り抜けできるので時間短縮になります。運転の荒さは人によりますが、今回の旅ではとても丁寧な運転手ばかりと出会いました。

ジプニーは、エアコンのないバスといったイメージです。バスの運転手ともう1人お金を徴収する人が乗っています。その人に降ろしてもらいたい場所を伝え、提示された料金を渡します。エアコンはありませんが、風が心地よかったので、まあまあ快適でした。一つだけ問題として、Googleマップが当てにならないので、どのジプニーがどこに行くかは到底予想もつきません。だから、現地の人に連れて行ってもらったり、聞いて教えてもらいました。ジプニーは10~15ペソ（約25~50円）と最安値の乗り物です。

トライシクルとペディキャブはバイクもしくは自転車の横に荷台がくっついていて、そこに人間が乗るユニークな乗り物です。トライシクルがバイク、ペディキャブが自転車です。3人用から5人用があります。料金は10~20ペソ（約25円~50円）とジプニーよりは割高ですが、とても安いです。

3日間兄と過ごした後は、5日間のNPO団体主催の海外ボランティアに参加しました。ボランティアの概要は、クリスマスチャリティーとして、NGOの運営する「スラムの子ども施設」周辺の貧困地域・スラムや山奥の村において、子どもたちのために、炊き出し、食糧や支援物資の配給、レクリエーション等の支援イベントを行いました。

※主な活動内容は以下の通りです。

- NGOの施設周辺の貧困地域・スラムの人々や子どもたち、とのふれあいや異文化体験
- 山奥の村のスラムにおける炊き出し・チャリティーイベント
- ゴミ山におけるフィールドワーク

- スラムの子どもの施設（保育園）でのボランティア
- スラムのクリスマスナイト・イベント
- キリスト教国のフィリピンでの本場のクリスマス体験

この経験を通して、思ったことがいくつかあります。まずは、スラム街と聞くと餓死しそうな子供が何人もいるイメージでしたが、支援が行き届いているのか、食に困っている子どもはいなかったように感じます。また、PC やスマホを持っている子も多くいました。本当にスラムなのか疑うほどです。家や道路こそ設備は整っていませんが、困窮しきっているという印象は受けませんでした。子供達がとてもフレンドリーで元気な姿が見られたのでよかったです。それと同時に、支援している日本人からすると悲しいこともありました。食べ物で遊んだり、平気で食べ物を残して捨てる子がいました。これが教育の行き届いていない環境が原因で引き起こる現実なのかなと痛感しました。ただ日本からお金の寄付をしたり、物資を寄付しても根本的な部分が変わらないと意味がないのだと気付かされました。インフラが整っていないのも、国力がないが故に起こることであって、改善するには長い年月とそこに暮らす人々の意識を変えることが必要だと考えさせられました。将来、貧困をなくしたいという夢があるので、今回は貧困地域の現実を自分の目で確認することができ、今自分がやるべきことが明確になったのでとても良い経験になりました。また機会があれば、スラムの子供達に会いに行こうと思います。

（英語学習について）

韓国とフィリピンでの英語学習について記述します。

正直、韓国ではあまり英語は通じなかったので英語学習にはなりませんでしたが、しかし、韓国語に触れる機会が多かったため、韓国語にも興味を持ちました。韓国は熊本から近いし、ご飯もおいしいので、今後何度も訪れると思います。そのために韓国語を少し勉強してみたいと思いました。

フィリピンでは英語が一般的に使用されており、コミュニケーションをとる際に何不自由なく過ごせました。しかし、スラムの子どもたちの中には現地の言葉であるビサヤ語しか話せない子もいました。そのおかげで少しビサヤ語を教えてもらいました。この経験を通じて、英語は使う頻度が多かったため英語を勉強するにはフィリピンはすごく良いと思いました。また、さまざまな現地の言葉を話すことで、現地の人々とすぐに打ち解け合えることがわかりました。まずは、英語を習得する必要がありますが、その後はさまざまな言語を学びたいと思いました。今まで以上に英語学習へのモチベーションが高まりました。

最後に、今回は写真が多くなったので最後にまとめて添付します。

<写真紹介>

～韓国料理～



写真 25 カルグクスと海鮮ちぢみ

カルグクスは日本のうどんに似ていた。薄味で美味しかった。海鮮ちぢみは日本とほぼ同じ。キムチが辛すぎた。うどんに入れるとちょうどよかった。



写真 26 冷麺、サムギョプサル、参鶏湯

韓国の冷麺は麺が固まっているのでハサミで十字に切って食べる。サムギョプサルはさまざまなタレや薬味をつけていただく。参鶏湯は丸ごとチキンと下には白米が入っていた。



写真 27 キムチチゲ

キムチチゲは、唐辛子入りの鍋で豚肉やネギが入っていた。シメはラーメンを入れたが、うどんやおじやのオプションもあった。食べると体がポカポカになる。



写真 28 明洞餃子と餃子の入ったうどん

明洞餃子は形が焼売に似ていた。また普通の餃子もあったが、これは日本のものと同じだった。

～工場見学～



写真 29 酒造工場

この工場では、韓国のお酒の歴史や原料・お酒の作り方を見学した。古い器具や書籍なども綺麗に保存されていた。写真 29 のような大きな酒壺が 300 個くらい並んでいて圧倒的な存在感を感じた。中にはお酒を試飲できるコーナーが用意されていたため、全て試飲した。その中でも特に気に入ったお酒を購入することもできた。貴重な体験ができた。

～韓服～



写真 30 韓服を着て景福宮を訪問

韓国の民族衣装を韓服といい、女性用がチマチョゴリ、男性用がパジチョゴリと言う。チマは女性用のスカートとう意味で、チョゴリは男女どちら上衣のことを表す。未婚の女性が着るのは赤いチマチョゴリで、結婚式での花嫁は、チマの色は深紅ですが黄緑や緑のチョゴリを着るよう。スカートがふわっとしてとても可愛かった。さまざまな色があるので、自分好みの色を見つけられると思う。

～韓国観光～



写真 31

N ソウルタワーはソウルを一望できる展望台。N ソウルタワー236m で、海拔からの高さは 479m である。「N」は「南山」と「新しい (new)」という 2 つの意味がある。N ソウルタワーへは、南山ケーブルカーを利用した。

～フィリピン料理～



写真 32 ナイトマーケット  
牛肉のステーキとチキンの  
スモークを食べた。日本人の  
口にも合う味付けだった。



写真 33 うべパフェ  
うべはヤマ芋の1種で日本では  
ダイジョと呼ばれている。甘味  
は少ないが栄養価は高い。



写真 34 お弁当  
お米は日本よりももちもち。ス  
モークチキンと角煮のような  
お肉が入っていた。麺は焼きそ  
ばの麺に似ていた。



写真 35 スラムの家庭料理



写真 36 スラムの家庭料理



写真 37 スラムの家庭料理

現地のスラムのご家庭にお邪魔して、家庭料理をいただいた。野菜は貴重なのか炭水化物と魚や肉類が多かった。今回、2つの家庭で食事をしたが、家庭によっては健康を気にして野菜を多く取り入れている家庭も少数あった。味は日本人の口にも合う味付けでとても美味しかった。



写真 38 飲食店にてディナー  
ショッピングモールの中の飲食店。  
南国ならではの海鮮は大きくて味  
がしっかりしていた。



写真 39 マンゴー



写真 40 マンゴージュース  
フィリピンのマンゴーは、2種類の味がある。酸っぱいマンゴーと  
甘いマンゴーである。甘いマンゴーは日本よりも甘い。日本では味  
わえない極上のマンゴージュースだった。

～こどもたちとの交流～



写真 41 山岳スラムの子どもたち  
バイクと歩きで山を上り山岳スラムに行った。子どもたちは皆、元気いっぱいでもちらも元気ももらった。足場が悪いところが多くあり危険だった。



写真 42 クリスマスパティー  
スラムの子どもたちとクリスマスパーティーをした。踊ったり、歌ったり、食事をしたりとても楽しかった。



写真 43 クリスマスマサ

キリストの救いに感謝してパンやぶどう酒で聖体拝領を行う祭儀・典礼を「ミサ」と呼ぶ。現地の人々は早朝4時に教会に集まり、2時間ほどお祈りをしていた。



写真 44 洗礼の浸礼

上述したが、これは浸礼の様子。宣誓のようなものをした後に水に浸かっていた。この日は4人がこの儀式に参加した。神聖な雰囲気だった。

～ダンプサイト (ゴミ山)



写真 45 ゴミ山



写真 46 ゴミ山から草木が生えている

フィリピンではゴミの焼却が禁止されているため、ゴミ問題が深刻化している。ごみから売れるものを拾い、お金にして生活している人が近くにはたくさんいた。ゴミ山のその名のごとく、ゴミから草木が生え、新しい山ができていた。山羊や野犬などの動物も生息していた。また、ゴミが原因で発生する悪臭がきつかった。周辺の道路は水捌けが悪く、浸水しているところが多かった。